

Japanese Registered Utility Model Publication No. 3070507

Date of Publication: August 4, 2000

Date of Registration: May 17, 2000

Date of Filing: January 25, 2000

Application No.: 2000-260

Applicant: Sunstar Bungu Kabushiki Kaisha

Creator: Eizoh Kobayashi

The publication describes a pair of scissors that prevents fingers from being caught between the scissor blades. As shown in Fig. 1, the scissors has a blade 3, which is connected to a handle 1, and a blade 4, which is connected to a handle 2. A cover 7 is formed integrally with the handle 1 so that an object that is to be cut may be inserted in a gap formed between the blade 3 and the cover 7. The cover 7 has a hollow portion 10 for receiving the blade 4 when the blades 3 and 4 are opened.

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第 3070507 号

(U3070507)

(45) 発行日 平成12年8月4日 (2000. 8. 4)

(24) 登録日 平成12年5月17日 (2000. 5. 17)

(51) Int. C1. 7

識別記号

B 26 B 29/04

F I

B 26 B 29/04

評価書の請求 未請求 請求項の数 3

O L

(全 6 頁)

(21) 出願番号

実願2000-260 (U2000-260)

(73) 実用新案権者 593157220

サンスター文具株式会社

東京都台東区竜泉3丁目35番13号

(22) 出願日

平成12年1月25日 (2000. 1. 25)

(72) 考案者 小林 英三

東京都台東区竜泉3丁目35番13号

(74) 代理人 100060896

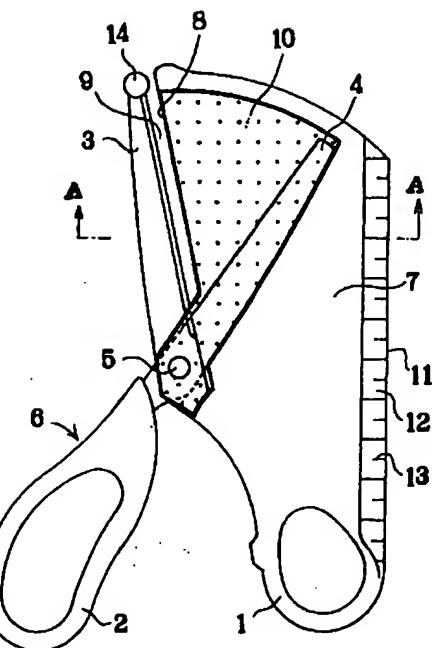
弁理士 杉山 泰三

(54) 【考案の名称】 ハサミ

(57) 【要約】

【課題】 開いた刃と刃の間に指を挟んで切断する危険の無い安全なハサミを提供する。

【解決手段】 一方の刃3との間に紙15等の被切断物は挿入可能だが指は挿入不可能な細い幅の隙間9を形成するようにその刃3と連続した一方の握り1にカバー7を一体的に設け、その握り1に対して他方の握り2を開いたときに他方の刃4が挿入する空洞部10をカバー7に設けたことを特徴とする。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 一方の刃3との間に紙15等の被切断物は挿入可能だが指は挿入不可能な細い幅の隙間9を形成するようにその刃3と連続した一方の握り1にカバー7を一体的に設け、その握り1に対して他方の握り2を開いたときに他方の刃4が挿入する空洞部10をカバー7に設けたことを特徴とするハサミ。

【請求項2】 カバー7から露出したままの状態を維持する一方の刃3の先端にキャップ14を被せた請求項1記載のハサミ。

【請求項3】 カバー7の一部に縁11が直線状の斜面部12を設けて、その斜面部12に長さを計測可能な目盛13を刻設した請求項1又は請求項2記載のハサミ。

【図面の簡単な説明】

【図1】 刀を開いた状態の正面図である。

【図2】 図1のA-A線における断面図である。

【図3】 刀を開いた状態の一部切截正面図である。

【図4】 刀を閉じた状態の一部切截正面図である。

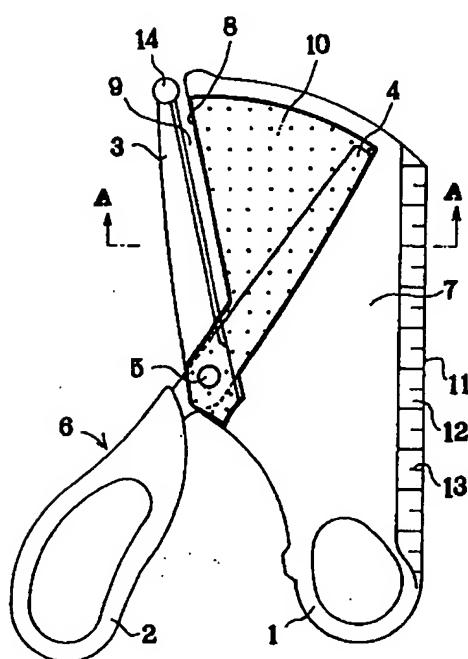
2

【図5】 紙等を切断する状態を示す正面図である。

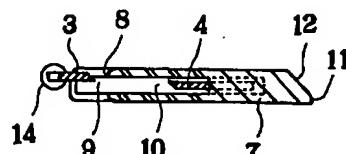
【符号の説明】

- | | |
|----|-------|
| 1 | 握り |
| 2 | 握り |
| 3 | 刃 |
| 4 | 刃 |
| 5 | 軸 |
| 6 | ハサミ本体 |
| 7 | カバー |
| 8 | 縁 |
| 9 | 隙間 |
| 10 | 空洞部 |
| 11 | 縁 |
| 12 | 斜面部 |
| 13 | 目盛 |
| 14 | キャップ |
| 15 | 紙 |

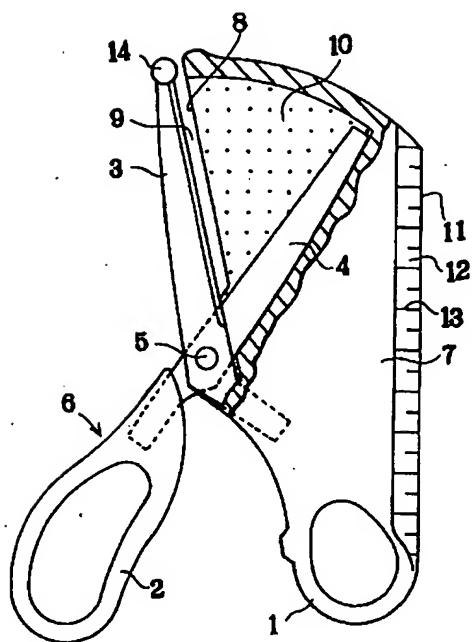
【図1】



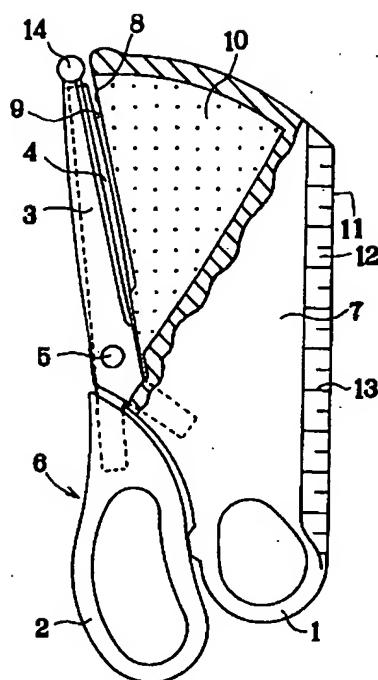
【図2】



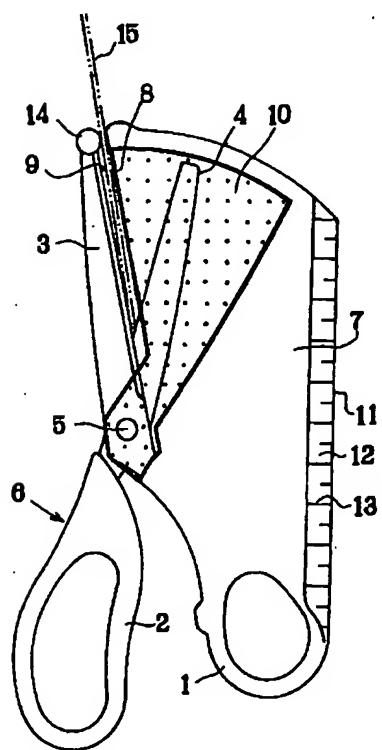
【図3】



【図4】



【図5】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案はハサミに関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来のハサミは、刃が常に露出している。

【0003】

ところで、子供等がハサミで紙等を切断する場合、開いた刃と刃の間に指を挟んで指を切断する危険があった。

【0004】**【考案が解決しようとする課題】**

そこで本考案は、開いた刃と刃の間に指を挟んで切断する危険の無い安全なハサミの提供を課題とする。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

上記課題を解決するために、本考案のハサミは、一方の刃3との間に紙15等の被切断物は挿入可能だが指は挿入不可能な細い幅の隙間9を形成するようにその刃3と連続した一方の握り1にカバー7を一体的に設け、その握り1に対して他方の握り2を開いたときに他方の刃4が挿入する空洞部10をカバー7に設けたことを特徴とする、という構成を探るものである。

【0006】

なお、上記の本考案のハサミは、カバー7から露出したままの状態を維持する一方の刃3の先端にキャップ14を被せることができる。

【0007】

また、上記の本考案のハサミは、カバー7の一部に縁11が直線状の斜面部12を設けて、その斜面部12に長さを計測可能な目盛13を刻設することができる。

【0008】

【考案の実施の形態】

以下、図を用いて本考案の実施形態について説明する。まず、指を挿入可能な孔を有する一対の握り1、2にそれぞれ刃3、4を連続的に取り付けて、両方の刃3、4の基端部を重ね合せて軸5により回動自在に止着することにより、その軸5を支点として両方の握り1、2及び刃3、4を開閉自在に組み付けてハサミ本体6を構成する。

【0009】

そして、ハサミ本体6における一方の握り1にカバー7を一体的に設ける。このカバー7は人差し指等を挿入可能な孔を有する握り2よりも親指を挿入可能な孔を有する握り1に設ける方が好ましい。その方が使いやすいからである。なお、カバー7はプラスチックを材料として平板状に成形することができる。

【0010】

カバー7は、その一部の直線状の縁8が、そのカバー7を一体的に設けた握り1と連続する刃3と対向して、その刃3との間に隙間9を形成できる形状とする。そして、その隙間9は紙15等の被切断物は挿入可能だが指は挿入不可能な細い幅とする。その幅は概ね2mm乃至3mm程度が好ましい。

【0011】

カバー7の内部には上記の刃3と対向する縁8に開口する空洞部10を設ける。この空洞部10は、上記の握り1に対して他方の握り2を開くことにより、その握り2に連続した刃4を開いたときに、その刃4が挿入可能な形状及び大きさにする。

【0012】

また、カバー7から露出したままの状態を維持する刃3の先端にはキャップ14を被せることが好ましい。

【0013】

また、カバー7の有用性を増すために、外側の端部に縁11が直線状の斜面部12を設けて、その斜面部12に長さを計測可能な目盛13を刻設することが好ましい。このようにすれば、カバー7を定規として利用することができる。

【0014】

紙15等を切断する場合は、まず、図1乃至図3に示すように、刃3、4を開いてから、図5に示すように、隙間9に紙15等を挿入する。そして、刃3、4を閉じることにより、指を切ることなく紙15等だけを切断することができる。

【0015】

【考案の効果】

請求項1記載の本考案のハサミは、上記のように、刃3、4を開いてもカバー7と刃3との間の隙間9が細くて指を挿入できないので、刃3と刃4との間に指を挟んで切断するという危険が無く安全性が高い。

【0016】

また、請求項2記載の本考案のハサミは、上記の請求項1記載の考案が奏する効果に加えて、刃3の先端で手などを突き刺すという危険も、キャップ14により防止することができて安全性を一段と高めることができる。

【0017】

また、請求項3記載の本考案のハサミは、上記の請求項1記載の考案、又は請求項2記載の考案が奏する効果に加えて、カバー7を定規として利用できるので有用性が増大する。